

## Y02b 高等学校地学の教科書の天文用語について

沢 武文 (愛知教育大)

前回 (1986 年秋), 同じタイトルの発表を行っているが, このとき調査したのは, 当時の旧教育課程で使用されていた高等学校用の「地学」の教科書 8 冊である. この時の報告では, 用語の不統一が目立つこと, 古い用語 (当時でさえ死語と思えるもの) がまだ使われていること, 誤った使用があることなどを指摘した. このとき調査した用語の詳しいデータと指摘した問題点については, 沢 (1991, 愛知教育大学教科教育センター研究報告 15) にまとめられている. しかし, 1994 年の高校 1 年生から現教育課程になるとともに, 地学の教科書も「地学 IA」, 「地学 IB」と「地学 II」の 3 種類に分かれ, 天文関係の内容も次のように改定された. 旧「地学」で扱っていた内容は, 基本的には「地学 IB」(太陽系, 太陽, 恒星の性質と進化) と「地学 II」(銀河系, 銀河, 宇宙, および太陽系の進化) に分散されたといつてよい. また, 身近な地学を学習するという目的で新たに設置された「地学 IA」は, 地球から見た天体の運動, 時刻と季節, 暦しか扱っていない.

今回は, 現在発行されているこれらの新しい 3 種類の教科書 (「地学 IA」1 冊, 「地学 IB」5 冊, 「地学 II」2 冊) について, 使用されている天文用語の調査を再度行い, 前回指摘した問題点がどの程度改善されているか, 新たな問題点はないかなどを調べた. その結果, “galaxy” は「銀河」にほぼ統一されたこと, 天文学の進歩に伴う新しい用語 (「ダークマター」, 「超銀河団」, 「T タウリ型星」など) がかなり増えたことなどがわかった. しかし, “apparent magnitude” の意味で「実視等級」(visual magnitude) が使用されている教科書もあった. 各教科書ごとに使用されている用語の一覧も掲載する.